

プレイ終了後、受付エリアに戻ってきた主人公をシオリが迎える。

【シオリ】 おつかれさまでした。

【シオリ】 どうぞ、こちらで少しお休みください。いまお茶をお入れしますね。

主人公、シオリに促されてソファに座る。
シオリは応接セットの脇でお茶を淹れ始める。

【シオリ】 いかがでした、リオナ様は。

主人公、リオナをほめちぎる。

【シオリ】 んえ……ええ……。え、そんなに? そんなにすぐかつたんですか? 確かにまあ、大人びた子だなあとは思ってましたけど……。教育するどいろじやなかつただなんて……。

【主人公】 それからあとひとつあるんだけど。

【シオリ】 あとひとつ、はい、なんでしょう

【主人公】 リオナ様、絶対にやめさせないでね。

【シオリ】 絶対に……やめさせないで……ですか。それはまあ……リオナ様次第といふかなんといふか……。

【シオリ】 いまのところ好評をいただいてますし、他の女王様ともうまく交流できてるみたいですし……大丈夫ではないでしょうか。

【シオリ】 といいますか、はあ……

【シオリ】 まあ……やめておきましょう。

【主人公】 なんだい、気になるよ。

【シオリ】 いいえ、別に。なんでもございません。男の人って、やっぱり若い子の方が好きなのかなって思つただけです。

【シオリ】 はい、どうぞ。カモミールティーです。

【主人公】 あ、ありがと。

【シオリ】 次の『予約』お待ちしておりますね。もちろん、リオナ様で。くすくす。